資料１

県立高等学校の未来

１　高校教育を取り巻く状況

（１）社会情勢の変化

① 人生 100 年時代の到来

医学の進歩等により平均寿命は大きく伸長し、人生 100 年時代の到来が予測されています。一人ひとりが人生のさまざまな状況に応じていつでも学び、人生の可能性を広げ、輝き続けられる社会の実現が求められています。

② 超スマート社会（Society 5.0）の実現と学びにおけるＤＸの推進

人工知能（AI)、ビッグデータ、IoT、ロボティクス等の先端技術、情報通信技術（ICT）が高度化し、産業、経済、生活に取り入れられた Society 5.0 時代が到来しつつあります。教育においても、デジタル技術を活用した学びやそのための基盤整備など、ＤＸ（デジタルトランスフォーメーション）の推進が必要となっています。

③ 持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現

「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現のための国際目標（SDGｓ）においては、すべての人々に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する」ことが教育に関する目標とされています。

④ グローバル化の進展

経済や社会のグローバル化が加速し、情報通信等の技術革新により人々の社会生活の範囲が拡大しています。本県における外国人住民数は平成 31 年 1 月時点で 50,643 人と県人口の 2.78%を占め、全国４位の外国人比率となっています。

本県の県立高校における日本語指導が必要な外国人児童生徒は、262 人（令和 2 年度）となっています。

<県立高等学校に在籍する日本語指導が必要な外国人児童生徒（日本国籍を含む）>

		H27	H28	H29	H30	R1	R2	5 年間の増加
小中学校	人数	1,978 人	2,094 人	2,203 人	2,360 人	2,527 人	2,447 人	+469 (+23.7%)
	増減数		+116	+109	+157	+167	-80	
高等学校	人数	202 人	228 人	235 人	254 人	253 人	262 人	+60 (+29.7%)
	増減数		+26	+7	+19	-1	+9	
合　計　人　数		2,180 人	2,322 人	2,438 人	2,614 人	2,780 人	2,709 人	+529 (+24.2%)

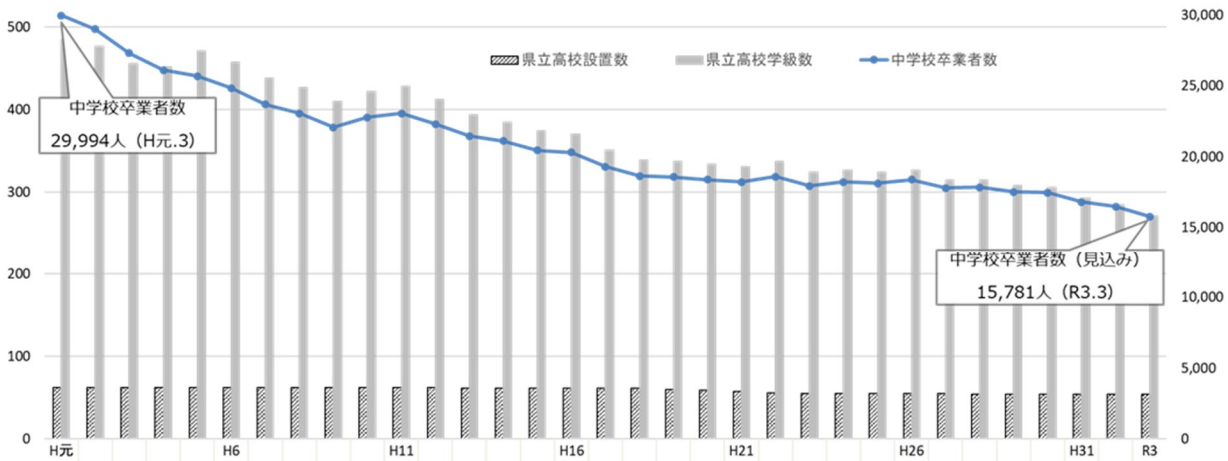
⑤ 人口減少、少子・高齢化、学校の小規模化の進行

本県の人口は平成 19 年をピークに減少局面に入っており、国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、令和 7 年には 171 万人に、令和 27 年には 143 万人にまで減少することが見込まれています。

県内の中学校卒業者数も年々減少を続けており、平成元年から令和３年を見ると、29,994 人から 15,781 人（見込み）と約 47.4%の減となっています。

全日制課程を置く県立高校の設置数については 62 校から 54 校へ８校の減少となる一方で、全日制課程を置く県立高校の学級数は 485 学級から 271 学級と約 44.1%の減、１校あたりの平均学級数は 7.82 学級から 5.02 学級に減少するなど、県立高校の小規模化が進んでいます

【H1～R3 中学校卒業者数/全日制県立高等学校（含校舎）設置数/全日制県立高等学校（含校舎）学級数】



	H元					H6					H11					H16					H21					H26					H31		R3
県立高校設置数	62	62	62	62	62	62	62	62	62	62	62	62	61	61	61	61	61	61	60	59	57	56	55	55	55	55	55	54	54	54	54	54	54
県立高校学級数	485	477	456	452	471	457	438	427	410	422	428	412	394	385	374	370	351	339	337	334	331	337	324	327	324	327	315	315	308	306	293	285	271

【中学校卒業者数の推移・将来推計】

中学校卒業者数は、令和４年３月に前年度を上回るものの、令和５年３月以降の５年間で 1,000 人程度減少することが見込まれます。

（２）　これからの時代に必要とされる力、学びのあり方

① 豊かな未来を創っていく力の育成

「三重県教育ビジョン」においては、これからの時代に必要となる力を「豊かな未来を創っていく力」とし、「確かな学力」「豊かな心」、「健やかな身体」を身に付けることで、自分のよさや可能性を認識するとともに、他者に対する理解や思いやり・優しさを育み、それらを基礎として、失敗を恐れずさまざまなことに積極的に挑戦し、他者とつながり、協働しながら困難な課題を乗り越えていく力を育んでいく、としています。

＜参考＞国および経済団体からは、これからの時代に必要とされる力として、以下のとおり提唱されています。

ア）OECD（経済協力開発機構）

「社会を変革し未来を作り上げていくためのコンピテンシー」

・新たな価値を創造する力
・対立やジレンマを克服する力
・責任ある行動をとる力

イ）中央教育審議会

「次代を切り拓く子どもたちに求められる資質・能力」

・文章の意味を正確に理解する読解力
・教科等固有の見方・考え方を働かせて自分の頭で考えて表現する力
・対話や協働を通じて知識やアイディアを共有し新しい解や納得解を生み出す力

ウ）日本経済団体連合会

「Society 5.0 の人材に求められる能力と資質」

・リーダーシップ、挑戦心、自己肯定感、忍耐力などの資質
・読み書き能力、計算力、基礎的な英語力などの基礎学力
・データ分析力/外国語コミュニケーション力/IT スキル等のリテラシー
・　論理的思考力と規範的判断力
・　課題発見・解決能力
・　未来社会の構想・設計力

② 主体的・対話的で深い学びと個別最適な学び

令和４年度から年次進行で実施されることとなっている高等学校学習指導要領において、育成をめざす資質・能力について、

・「生きて働く『知識・技能』の習得」
・「未知の状況にも対応できる『思考力・判断力・表現力等』の育成」
・「学びを人生や社会に生かそうとする『学びに向かう力・人間性等』の涵養」

の三つの柱で整理するとともに、生徒一人ひとりに社会で求められる資質・能力を育み、生涯にわたって探究を深める未来の創り手を送り出していくことが重要であるとして、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を進めていくことを示しています。

一人ひとりの子どもの能力を最大限に引き出すための ICT 等の活用も含めた多様な学びの提供、地域課題の解決に実践的に取り組む学びなど実社会とつながった学びの推進、生徒一人ひとりの状況に応じた指導と個々の生徒に応じた学習活動の提供などの個別最適な学びの推進などの実現が求められています。

（３）「県立高等学校活性化計画」に基づいた高等学校の活性化・魅力化の推進

三重県においては、「県立高等学校活性化計画」（計画期間は平成 29 年度から令和３年度までの５年間）に基づき、新しい時代を生きる子どもたちに必要な力や社会とつながり貢献する力の育成に取り組むとともに、生徒一人ひとりに応じた多様な教育や地域で学び地域を活かす教育を推進しています。

〈県立高等学校活性化のための取組〉

１）新しい時代に求められる学びへの変革
- ① 主体的で深い学びに協働して取り組む教育の充実
- ② 生徒の成長を促す評価方法の改善
- ③ カリキュラム・マネジメントを取り入れた学校教育の改善
- ④ ＩＣＴ活用による学びの充実
- ⑤ 特別活動等の活性化

２）社会とつながり貢献する力の育成
- ① 社会の一員としての自覚と責任を育む教育の推進
- ② グローカル人材の育成
- ③ キャリア教育の推進
- ④ 学校の枠を越えた学びの充実

３）生徒一人ひとりに応じた多様な教育の推進
- ① 学びに向かう力を育む教育の推進
- ② 特別支援教育の充実
- ③ 定時制教育・通信制教育の充実
- ④ 外国人生徒教育の充実
- ⑤ 経済的に不利な環境にある生徒への支援

４）地域で学び地域を活かす教育の推進
- ① 地域を学び場とした教育の充実
- ② 大学等と連携した教育の推進
- ③ 産業界と連携した職業教育の推進
- ④ 地域に根差した防災教育の推進

５）新しい学びと多様で専門的な教育を実践する教職員の育成
- ① 授業力の向上
- ② 多様な教育課題への対応
- ③ 組織運営体制の強化による教育活動の質の向上

２　県立高等学校みらいのあり方検討委員会での検討

県教育委員会においては、社会情勢の変化や生徒数減少の状況等をふまえながら、将来を生きていく高校生にどのような学びが必要か、そのために高等学校はどのようにあるべきかなど、望ましい学校規模と配置を含めた多様な観点・角度からの議論ができるよう、令和２年度に「県立高等学校みらいのあり方検討委員会」を設置し、地域産業界や教育・文化等の分野、県立高校ＯＢなど様々なバックボーンや経験を持つ方々の参画を得て議論を重ねているところです。

【協議テーマと主な意見】

１）新たな時代における本県の高等学校教育のあり方

- ものを考えて解決するための方法を**体験的に学べる**ようにすることが必要である。
- **失敗しても、チャレンジできる**ようにすることが必要である。
- 学校・教員は画一的な方法論に陥ることなく、**一人ひとりの生徒の興味や関心を引き出し**ていけるようにすることが必要である。

２）新たな時代に対応した高等学校教育

- 地域の方々や企業、ＮＰＯと関わった探究活動など、**実社会とつながった学び**を行うことが必要である。
- 生徒は自分に興味のあること、目的に適うことであれば自ら学習を進めていくため、教員は、生徒がそうした目標や目的を持てるよう導くことが求められる。生徒がやりたいことを自ら学びとり、自分に応じた学び方で自ら学んでいけるよう、ＩＣＴを活用しながら、**学びの個別最適化**に向けて学習環境や支援体制を整備することが必要である。

３）全ての高校生を誰一人取り残さない教育環境づくり

- 様々な背景を持つ外国人生徒や不登校生徒等に対しては、単位修得や学習面での支援として、柔軟なカリキュラムを設定したり、拠点校を中心にオンライン等を使って学びやすい環境の整備を行うなど、**誰一人取り残さない仕組みづくり**を行っていく必要がある。
- 価値観の多様化を認めることで、自分はここに居ても良いと感じられるようにすることが大切である。
- 都市部ではないところにも県立高校を残しておくなど、**通学不便地に居住する生徒への配慮**、自宅に近い地域で学べる環境の維持も考えておく必要がある。こうした高校にあっては「地域との連携」という部分で学校の特色を出していくということも良いのではないか。

４）これからの学びに対応した学科・課程のあり方

- **ある程度の規模がないと望ましい学びは実現できない**。全国的に少子化が進み高等学校の小規模化が進む中、今後、高等学校統廃合は避けられない。統廃合を考えていくにあたっては、学びの多様性があり、学びのニーズに応えていける総合学科を大きくしていくことも考えられる。

・ 現状、県立の定時・通信制高等学校はいずれも定員の充足率が非常に低いが、今後は、生徒の少ない定時・通信制を再編して、**生徒のニーズに応じたより柔軟な対応ができる通信制高校**をつくることが必要ではないか。
・ ６次産業化などこれからの時代の産業構造に対応するためには、学科毎の特性は担保しながらも、**農業・工業・商業を一体的に学べる学校**が必要である。こうした学科の一体化・相互乗り入れの形態は、専門学科の小規模化を解決していくための有効なアプローチにもなるのではないか。

５）これからの社会の変化と県立高等学校の学びに対応した社会性・人間性の育成

選挙権年齢や成年年齢の引き下げ、学校の小規模化、新型コロナウイルス感染症の影響等により、学校や子どもたちを取り巻く状況が大きく変化している中、授業、学校行事やホームルーム活動、部活動等の学校生活を通して生徒に社会性・人間性を育んでいくための取組について議論する予定です。

※ 第５回会議（令和３年３月 15 日開催予定）で議論予定

６）県立学校の規模と配置

少子化により学校の小規模化が進み、今後さらに生徒数の減少が見込まれる中で、これからの社会や学びの変化に対応した学校規模と配置について議論する予定です。

※ 第５回会議及び第６会議（令和３年３月 26 日開催予定）で議論予定

３　地域協議会での検討

中学校卒業者の大幅な減少が予想されている伊賀・伊勢志摩・紀南の各地域に設置した地域協議会において、地域の方々と教育に関する国の動向や「県立高等学校みらいのあり方検討委員会」の議論内容を共有しながら、今後の地域の高等学校教育や県立高校のあり方等について協議しています。

【地域協議会での主な意見】

＜これからの高校生に育みたい力について＞

ア）新学習指導要領にある「生きる力」および三重県教育ビジョンにある「生き抜く力」をふまえ、特に職業学科設置校においては、「**社会の一員として働ける力**」や「**一生学び続ける向上心**」を養うことが大切である。

イ）**地域への愛着心**を育ててもらいたい。卒業後に一度地元を離れても、いつか地元に帰ってきたいという思いを育てることが大切である。

ウ）企業や社会で良好なコミュニケーションをとるためには、**自分の考えを表現する力**が欠かせない。加えて、ＩＣＴなどの新しい技術を使いこなす力も求められる。

エ）**自立や共生の力**が大切であると感じており、そのために、課題を解決する力や情報を活用する力、コミュニケーション力を育む教育を進めていく必要がある。

オ）高等学校は次世代を育てる地域の核として重要であり、将来地域に戻って地域を支える人材を育てる場所でもあるため、地域の小規模校だけでなく、全ての高等学校においても**地域を題材とした探究に取り組む学習**が大切である。

＜地域の県立高等学校のあり方について＞

カ）多様な学びを求めて地域外の通信制高等学校などへ一定数の子どもたちが進学する状況があるが、地域に昼間定時制の高等学校があれば、そういったニーズにも地域内で対応できるのではないか。

キ）外国籍の子どもたちの中には、日本語を一定習得してから過年度で高等学校へ進学したり、昼間は日本語教室で日本語を勉強し夜間に学校で学んだりする生徒が一定数いることから夜間定時制が必要である。

ク）不登校傾向の生徒など学校に通いにくい生徒が当地域内で学べるよう、自分で学びをデザインできる通信制課程のサテライト校を設けてはどうか。

ケ）地域の小規模校は地域の活性化にも貢献しており、地域にはなくてはならない存在である。40人以下の学級編成やＩＣＴを活用した他校との連携等の工夫により小規模校の維持・存続を図ってほしい。

コ）地域に生徒を定着させるには、産学が連携して、今までと違った観点で子どもたちを育てていくべきである。

サ）現状の高校数を維持することが望ましいが、学校規模が小さくなることで各校の活気が損なわれること、各校の小規模化が進んで魅力が低減し地域外への流出がさらに進み再編するすら困難になってしまうことが懸念される。今後、地域の中学生がさらに減少していくことが見込まれる中、現実的には再編統合を進めていく必要があるのではないか。

シ）専門学科の学びは魅力も高く地域の未来にとっても必要不可欠なものである。学科の専門性や部活動・学校行事等における社会性の育成を考えると、これ以上の小規模化はすべきでなく、専門学科設置校の再編・統合を検討すべきである。

4　県立高等学校生徒を対象としたアンケートの実施

三重県の高校生の現状を把握するため、今年度県立高等学校に入学した生徒（高校１年生）を対象に、高校での学びに対する期待や興味・関心、これから受けたい授業等について、インターネットを活用したアンケートを実施しました。

（１）アンケートの実施概要

○ 調査期間　令和２年12月７日（月）～令和３年１月11日（日）

○ 調査対象　学科（普通科、専門学科、総合学科）課程（全日制、定時制、通信制）別に抽出

○ 回答者数　3,373名

（学科別内訳）普通科、普通科系専門学科　1,695名
職業系専門学科　1,395名
総合学科　283名

（課程別内訳）全日制　3,146名
定時制・通信制　227名

（２）アンケート結果（速報）

別冊「県立高等学校生徒を対処としたアンケート結果報告（速報値）」参照

【参考】アンケート項目

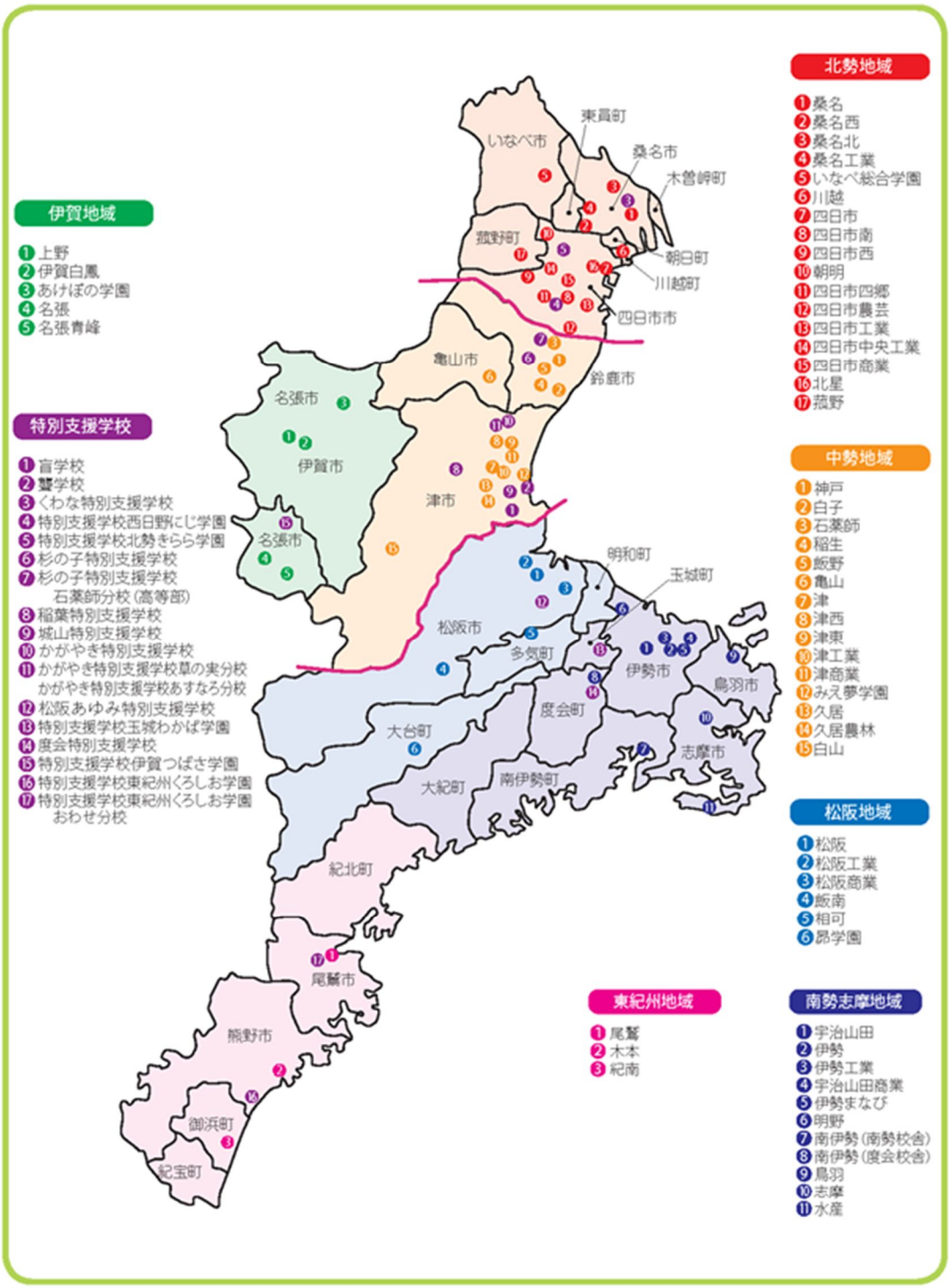
質問番号	項目	別冊頁数
1	高校に入学する前、高校に対して期待していたことは何ですか。	1
2	現在通っている高校を選んだ理由は何ですか。	2
3	高校を選ぶとき、参考にしたことは何ですか。	3
4	どんなときに、現在通っている高校に入学出来てよかったと実感できますか。	4
5	現在通っている高校での生活について満足していますか。	6
6	質問５でそのように回答した理由は何ですか。	7～8
7	あなたは普段、授業の予習･復習や受験勉強、資格取得のための学習などを、授業以外（家や塾、放課後の学校等）でどれくらいしていますか。	9～12
8	あなたは普段、学校の授業時間以外に一日あたり平均でどれくらいの時間、読書をしますか。	13
9	あなたは普段、学校の図書館をどれくらい利用しますか。	15
10	地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか。	17～18
11	これからの時代に向けて高校時代に身につけておくことが必要だと思うものはどれですか。	19
12	質問 11 で選んだ項目について、あなた自身は、それらを身につけることができていると思いますか。	20
13	学校だけはなく普段の生活も含めて、これから学びたいと思っていることや、興味･関心を持っていることについて一言で表現してください。	21
14	今後、どのような形の授業を受けたいですか。	23
15	現在通っている高校をよりよくするためには、どんなことをしたらよいと思いますか。	25
16	これからの社会には、どんな高校があったらいいと思いますか。	27

５　今後の進め方

○　「県立高等学校みらいのあり方検討委員会」や地域協議会において、引き続き、子どもたちに身につけてほしい力、そのために必要となる学びや学校のあり方について、議論していきます。

○　現行の「県立高校活性化計画」の計画期間が令和３年度で終了します。こうしたことから、令和３年度においては、「県立高等学校みらいのあり方検討委員会」や地域協議会等での議論を踏まえ、令和の時代を生きる子どもたちに必要となる力とそうした力を一人ひとりの子どもたちに育んでいくことのできる県立高等学校における学び、学校の規模や配置について検討を進め、「三重県教育改革推進会議」での審議をいただき、次期の「県立高等学校活性化計画」につなげていきます。

三重県立学校の所在地


北勢地域
1 桑名
2 桑名西
3 桑名北
4 桑名工業
5 いなべ総合学園
6 川越
7 四日市
8 四日市南
9 四日市西
10 朝明
11 四日市四郷
12 四日市農芸
13 四日市工業
14 四日市中央工業
15 四日市商業
16 北星
17 菰野
中勢地域
1 神戸
2 白子
3 石薬師
4 稲生
5 飯野
6 亀山
7 津
8 津西
9 津東
10 津工業
11 津商業
12 みえ夢学園
13 久居
14 久居農林
15 白山
松阪地域
1 松阪
2 松阪工業
3 松阪商業
4 飯南
5 相可
6 昂学園
南勢志摩地域
1 宇治山田
2 伊勢
3 伊勢工業
4 宇治山田商業
5 伊勢まなび
6 明野
7 南伊勢（南勢校舎）
8 南伊勢（度会校舎）
9 鳥羽
10 志摩
11 水産
東紀州地域
1 尾鷲
2 木本
3 紀南
伊賀地域
1 上野
2 伊賀白鳳
3 あけぼの学園
4 名張
5 名張青峰
特別支援学校
1 盲学校
2 聾学校
3 くわな特別支援学校
4 特別支援学校西日野にじ学園
5 特別支援学校北勢きらら学園
6 杉の子特別支援学校
7 杉の子特別支援学校
石薬師分校（高等部）
8 稲葉特別支援学校
9 城山特別支援学校
10 かがやき特別支援学校
11 かがやき特別支援学校草の実分校
かがやき特別支援学校あすなろ分校
12 松阪あゆみ特別支援学校
13 特別支援学校玉城わかば学園
14 度会特別支援学校
15 特別支援学校伊賀つばさ学園
16 特別支援学校東紀州くろしお学園
17 特別支援学校東紀州くろしお学園
おわせ分校
いなべ市
東員町
桑名市
木曽岬町
菰野町
朝日町
川越町
四日市市
亀山市
鈴鹿市
名張市
伊賀市
津市
明和町
玉城町
松阪市
多気町
伊勢市
鳥羽市
度会町
大台町
志摩市
大紀町
南伊勢町
紀北町
尾鷲市
熊野市
御浜町
紀宝町

【参考】県立高等学校の教育課程による分類（令和２年４月入学生）

全日制課程

普通科		桑名、桑名西、桑名北、川越、四日市、四日市南、四日市西、朝明、四日市四郷、菰野、神戸、白子、石薬師、稲生、亀山、津、津西【単】、津東【単】、久居【単】、白山、松阪、相可【単】、宇治山田、伊勢、南伊勢（南勢、度会校舎）、志摩、上野、名張青峰【単】、尾鷲【単】、木本、紀南【単】
普通科	コース制	四日市（国際科学）、四日市南（数理科学）、四日市西（比文・歴史、数理情報）、四日市四郷（スポーツ科学）、白子（文化教養）、久居（スポーツ科学）【単】、伊勢（国際科学）、名張青峰（文理探究）【単】、尾鷲（プログレッシブ）【単】
専門学科	農業	四日市農芸、久居農林、相可、明野、伊賀白鳳（生物資源・フードシステム）【単】
専門学科	工業	桑名工業、四日市工業、四日市中央工業、津工業、松阪工業、伊勢工業、伊賀白鳳（機械・電子機械・建築デザイン）【単】、尾鷲（システム工学）【単】
専門学科	商業	四日市商業、津商業、白山（情報コミュニケーション）、宇治山田商業、松阪商業【単】、伊賀白鳳（経営）【単】、尾鷲（情報ビジネス）【単】
専門学科	水産	水産（海洋・機関、水産資源）
専門学科	家庭	四日市農芸（生活文化）、白子（生活創造）、亀山（総合生活）、久居農林（生活デザイン）、相可（食物調理）、明野（生活教養）
専門学科	看護	桑名（衛生看護）
専門学科	情報	亀山（システムメディア）
専門学科	福祉	朝明（ふくし）、明野（福祉）、伊賀白鳳（ヒューマンサービス）【単】
専門学科	その他	桑名（理数）、川越（国際文理）、神戸（理数）、稲生（体育）、飯野（英語コミュニケーション・応用デザイン）、津西（国際科学）【単】、松阪（理数）、松阪商業（国際教養）【単】、上野（理数）
総合学科		いなべ総合学園、飯南、昴学園、鳥羽、あけぼの学園、名張、木本 【すべて単位制】

定時制課程

普通科	桑名、北星【単】、飯野【単】松阪工業【単】、伊勢まなび（昼間部）【単】、上野、名張【単】、尾鷲【単】、木本【単】
専門学科	北星（情報ビジネス）【単】、四日市工業【単】、伊勢まなび（夜間部：ものづくり工学）【単】
総合学科	みえ夢学園【単】

通信制課程

普通科	北星【単】、松阪【単】

※【単】は単位制

<学校数と配置>（令和２年度）

中勢地域
- ●普通科単独校（4）
- ●普通科・専門学科併置校（7）
- ●専門学科校（3）
- ●総合学科校（1）
- ●全日制独立校（13）
- ●全定併置校（1）
- ●定時制独立校（1）

北勢地域
- ●普通科単独校（7）
- ●普通科・専門学科併置校（4）
- ●専門学科校（5）
- ●総合学科校（1）
- ●全日制独立校（14）
- ●全定併置校（2）
- ●定通併置校（1）

伊賀地域
- ●普通科単独校（1）
- ●普通科・専門学科併置校（1）
- ●専門学科校（ 1）
- ●総合学科校（1）
- ●普通科・総合学科併置校（1）
- ●全日制独立校（3）
- ●全定併置校（2）

松阪地域
- ●普通科・専門学科併置校（3）
- ●専門学科校（1）
- ●総合学科校（2）
- ●全日制独立校（4）
- ●全定併置校（1）
- ●全通併置校（1）

牟婁地域
- ●普通科単独校（1）
- ●普通科・専門学科併置校（1）
- ●普通科・総合学科併置校（1）
- ●全日制独立校（1）
- ●全定併置校（2）

南勢地域
- ●普通科単独校（4）
- ●専門学科校（4）
- ●普通科・専門学科併置校（1）
- ●総合学科校（1）
- ●全日制独立校（9）
- ●定時制独立校（1）

【参考】県立高等学校（全日制）における学級数の状況

県立高等学校活性化計画においては、社会性の育成、幅広い教科・科目の開設、学校行事や部活動の充実のためには一定の規模が必要となることなどから、望ましい学校規模を１学年３～８学級としていますが、それを下回る１学年２学級以下の高等学校は平成 29 年度の５校から令和３年度には８校（９校舎）に増加しています。

【平成 29 年度入学生】

地域名	２学級	３学級	４学級	５学級	６学級	７学級	８学級	９学級	学校数
桑員			桑名工業(工)		桑名北(普)		桑名西（普） いなべ総合学園(総)	桑名(普･理･看)	5
四日市			菰野(普)		朝明(普・福) 四日市四郷(普) 四日市農芸(農･家) 四日市中央工業(工)	四日市西(普) 四日市商業(商)	川越（普・英） 四日市南(普) 四日市工業(工)	四日市(普)	11
鈴鹿・亀山			石薬師(普) 飯野(他･英)		白子(普･家) 稲生(普･体) 亀山(普･情･家)		神戸(普･理)		6
津		白山(普･商)			津工業(工) 久居(普) 久居農林(農･家)	津商業(商)	津西(普･国) 津東(普)	津(普)	8
松阪	飯南(総) 昴学園(総)			松阪商業(商･国)	松阪工業（工） 相可(普･農･家)		松阪(普･理)		6
伊勢志摩	鳥羽(総) 水産(水)	南伊勢(普) 志摩(普)		伊勢工業(工) 宇治山田商業(商) 明野(農･家･福)	宇治山田(普)		伊勢(普)		9
伊賀	あけぼの学園(総)			名張(総)		上野（普・理） 伊賀白鳳 (工･商･農･福)	名張青峰（普）		5
東紀州		紀南(普)		木本(普･総)	尾鷲(普･商･工)				3
学校数	5	4	4	6	15	5	11	3	53

【令和３年度入学生】

地域名	２学級	３学級	４学級	５学級	６学級	７学級	８学級	９学級	学校数
桑員			桑名工業(工)	桑名北(普)		桑名西（普） いなべ総合学園(総)	桑名(普･理･看)		5
四日市			菰野(普)	四日市中央工業(工) 朝明(普･福) 四日市四郷(普) 四日市農芸(農･家)	四日市西(普) 四日市商業(商)	川越（普･英） 四日市工業(工)	四日市(普) 四日市南(普)		11
鈴鹿・亀山		石薬師(普)	飯野(他･英)	稲生(普･体) 亀山(普･情･家)	白子(普･家)	神戸(普･理)			6
津		白山(普･商)		久居(普)	津工業(工) 津商業(商) 久居農林(農･家)	津東(普)	津(普) 津西(普･国)		8
松阪	飯南(総) 昴学園(総)		松阪商業(商･国)	松阪工業（工） 相可(普･農･家)		松阪(普･理)			6
伊勢志摩	南伊勢(普) 鳥羽(総) 志摩(普) 水産(水)		伊勢工業(工) 宇治山田商業(商) 明野(農･家･福)	宇治山田(普)		伊勢(普)			9
伊賀	あけぼの学園(総)			名張(総)	名張青峰（普）	上野（普･理） 伊賀白鳳 (工･商･農･福)			5
東紀州	紀南(普)		木本(普･総)	尾鷲(普･商･工)					3
学校数	8	2	8	13	7	10	5	0	53

<在籍生徒数>（令和２年度５月１日現在）

（１）全日制

学科名	生徒数
普通	18,702
農業	1,647
工業	4,420
商業	2,919
水産	197
家庭	929
看護	120
情報	237
福祉	356
理数	714
体育	221
英語	463
その他	578
総合学科	2,515
計	34,018

（２）定時制

学科名	生徒数
普 通 科	849
工業学科	167
商業学科	144
総合学科	465
計	1,625

（３）通信制

学校名	生徒数
北星	931
松阪	1,246
計	2,177